

広島県聴覚障害者センターだより

**H C C**

**Hiroshima Chokaku Center**

広島県聴覚障害者センター

〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29

電話：082-254-0085

FAX：082-254-0087

E-mail minami@hiro-chokaku.jp

URL hiro-chokaku.jp

**No.17** 2018(平成30)年11月1日発行 (毎月1日発行)



## 「幸子」



DVD「幸子 I」を見た。DVD「幸子」は中途失聴者をテーマとした演劇公演を編集したものであり、徳島県難聴者と支援者の会(ナシの会)の製作作品である。

とある商社に中途失聴者の幸子が入社する。聞こえないから筆談して欲しいという幸子に、同僚は露骨に面倒くさがる。電話を取らない(取れない)幸子に自分たちの負担が増えると言ひ、お荷物扱いする。障害(基礎)年金をもらっているのなら、周りに迷惑をかけてまで働かず、年金で生活したらどうかという暴言も飛び出す。

朝、出勤してくる同僚に後ろから挨拶されても幸子には聞こえない。仕方がないことだが、生意気にみられるのではと幸子は心配する。そこで、幸子は一番早く出社し、後から出社してくる同僚の顔を見て挨拶をするようにする。そうした幸子を見て、同僚も「電話をとらない」のではなく「電話をとれない」こと、「会話に入ってこない」のではなく「会話に入れない」ことなどが少しずつ分かってくる。

ある時、お店のオープンを翌日に控え、大量の商品を仕入れることになる。しかし、注文を一けた少なく発注してしまうという事件が起こる。仕入れの商談では幸子に対応していたことで、幸子の聞こえないが故のミスではという流れになる。幸子は中途失聴者であり、発音も明瞭、障害者かどうか外見では分かりにくかったことも原因になっている。

しかし、濡れ衣ともいえる誤解も解け、以前に別の会社で働いていた時の知識、経験を生かした幸子の活躍もあり、事態は好転していく。(詳しくはDVDを見てください。)

この「事件」の根底には、障害に対する無知と障害者への無能力者観がある。そして、それは予断と偏見に基づいていることをこの作品は気づかせる。確かに、聞こえないとできないことがあるだろう。しかし、環境を整えればできることも多い。

今年は省庁及び地方自治体等の公的機関における障害者雇用水増し問題が発覚した。こうした世の中に、この作品がもっと脚光をあびてもいいと思う。

今年の聴障センターまつりは12月15日(土)と16日(日)です。15日の午前中には、広島県難聴者・中途失聴者団体連合会によるDVD「幸子 I」の上映会を開きます。(松岡)